

Create!Form アップデートマニュアル

[V8 → V10]

- ・ FormCast
- ・ FormCollect
- ・ FormPrint
- ・ FormPrintStage
- ・ FormPrintStage Web / WebClient

2017年5月
インフォテック株式会社

目次

1. はじめに.....	3
2. 互換性に関わる項目.....	4
① 互換性に関わる項目一覧.....	4
② 互換性に関わる項目の詳細.....	4
A. ランタイム実行ログの設定方法.....	4
B. 利用可能なXMLデータエンコーディングの変更.....	5
C. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い.....	5
D. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い.....	6
E. グラフ変数の間隔設定の扱い.....	6
F. ランタイムライブラリ（COMファイル）をASPから呼び出して実行する方法....	7
G. ランタイムライブラリ（DLLファイル）を直接呼び出して実行する方法.....	7
H. EXEランタイム（Windows版）の戻り値の変更.....	8
I. テキスト変数の太字チェックの有効化.....	9
J. 固定テキスト（プロポーショナルフォント）の文字間隔の扱い.....	9
K. プロポーショナルフォントの流し込み出力.....	10
L. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い.....	10
M. チェックボックス・ラジオボタンの十字表現の変更.....	10
3. アップデート手順.....	12
① V10 製品のインストール.....	12
② 互換性に関わる項目の確認.....	12
③ 資源ファイルの変換.....	14
④ ユーザー設定ファイルの移行.....	14
※重要.....	16
4. おわりに.....	17

1. はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性の課題となります。

Create!Form は従来のものと互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または技術の変化や市場のニーズに追従する事などを目的として改良を行います。改良を行う時には従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するように努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

本説明書では、**Create!Form** 製品の以下のバージョンのアップデートについて、詳細に記述しています。

現システムの製品バージョン : Version 8 (以下 V8 と記述)

アップデートバージョン : Version 10 (以下 V10 と記述)

※本マニュアルで、「開発環境」については **Create!FormDesign**、「運用環境」については **Create!Form** ランタイム製品が導入された環境を示します。

2. 互換性に関わる項目

V10 から一部仕様の変更されたため、出力結果やランタイムの動作において旧バージョンと差異が生じる場合があります。ここでは、どのような差異があるか互換性に関わる項目について説明します。

① 互換性に関わる項目一覧

[全ランタイム対象]

- A. ランタイム実行ログの設定方法
- B. 利用可能な XML データエンコーディングの変更
- C. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い
- D. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い
- E. グラフ変数の間隔設定の扱い

[Windows ランタイム対象]

- F. ランタイムライブラリ（COM ファイル）を ASP から呼び出して実行する方法
- G. ランタイムライブラリ（DLL ファイル）を直接呼び出して実行する方法
- H. EXE ランタイム（Windows 版）の戻り値の変更

[FormCast / FormCollect / FormPrint ランタイム対象]

- I. テキスト変数の太字チェックの有効化

[FormPrintStage / FormPrintStageWeb・WebClient ランタイム対象]

- J. 固定テキスト（プロポーショナルフォント）の文字間隔の扱い
- K. プロポーショナルフォントの流し込み出力

[FormPrintStage ランタイム対象]

- L. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い

[FormCollect ランタイム対象]

- M. チェックボックス・ラジオボタンの十字表現の変更

② 互換性に関わる項目の詳細

A. ランタイム実行ログの設定方法

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

V10 ではログローテーション機能の実装に伴い、実行ログの設定方法が変更されました。また、Linux/UNIX 環境では、環境変数による設定方法から設定ファイル (logsetup_u.properties) による設定方法に変更されました。

[対処]

インストールマニュアルの「1-16-4. ログファイルの出力設定」(P109) の内容に従ってログ出力の設定を行ってください。

B. 利用可能な XML データエンコーディングの変更

[対象]

- ・全ランタイム製品
- ・XML データマップ形式の帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

V10 では XML データの解析に使用する XML パーサを Xerces-C++(2.8.0) ライブラリに変更しました。このため、XML データで利用できるエンコーディングが以下の様に変更されます。

V8 で利用可能な XML データのエンコーディング

- ・ Windows
SJIS、EUC、UTF-8、UTF-16
- ・ UNIX
SJIS、EUC、UTF-8、UTF-16

V10 で利用可能な XML データのエンコーディング

- ・ Windows
SJIS、UTF-8、UTF-16 (※EUC は使用することができません)
- ・ UNIX
UTF-8、UTF-16 (※SJIS、EUC は使用することができません)

C. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品
- ・UpToV10 で互換性のチェックを行った際に「データ編集の競合」と指摘された

帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

V10 ではデータ編集設定が Form エディタに移動し、フォームファイルの各変数ごとにデータ編集を設定するよう変更されました。この変更に伴い、旧バージョンで1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルで使用し、且つそれぞれのデータマップファイルで異なるデータ編集を1つの変数に対して設定している場合に帳票資源ファイルの修正が必要となります。

なお、この仕様変更の影響があるかどうかは、UpToV10 で互換性のチェックを行うことで確認することができます。

[対処]

複数のデータマップファイルで共通利用されているフォームファイルをコピー・リネームして、それぞれのデータマップファイルに1つのフォームファイルを用意してください。次に、コピー・リネームしたフォームファイルをジョブファイル (.sty) に再登録した状態で UpToV10 を使用して帳票資源ファイルの変換を行ってください。

D. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

積み上げ棒グラフは、下から上に積みあがって描画されるため、凡例もグラフの描画に合わせて下から上に描画されるように改善されました。

(V8 の場合、積み上げ棒グラフの凡例は上から下へ描画されます)

E. グラフ変数の間隔設定の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

旧バージョンの棒グラフと横棒グラフでの間隔は、第1要素の1系列目の終わりより第2要素の1系列目の開始位置までとなっておりましたが、V10 では第1要素の最終系列目と第2要素の1系列目の開始位置までと変更したため、要素の間隔が広がります。

なお、グラフ変数において間隔を設定していない場合、間隔を設定していても 1 つの要素内で 1 つの系列のみを表示している場合は該当いたしません。

[対処]

以下の互換設定で V10 と V8 で同じ出力結果を得ることができます。

Windows

V10 製品導入ディレクトリ直下の” CreateV10.ini” の[Common]セクションに
“GraphSpace=1” と入力します。

UNIX

環境変数” CREATE_GRAPHSPACE” に” 1” を設定します。

なお、帳票資源ファイルを編集することでも対応することができます。
編集方法は、帳票資源ファイルのバージョンアップ後にグラフ変数のプロパティ
を開き、以下の計算式にて算出される値を「間隔」へ設定してください。

$$\text{V10 で設定する間隔} = \text{V6 に設定されている間隔} - \text{V6 に設定されている幅} \\ \times (\text{1 つの要素で表示する系列数} - 1)$$

F. ランタイムライブラリ (COM ファイル) を ASP から呼び出して実行する方法

[対象]

- Windows ランタイム製品
- COM ファイル (.dll) を ASP から呼び出してランタイムを実行している場合
※JavaAPI、.NetAPI、ランタイム EXE (.exe) を利用してランタイムを
実行している場合は影響ありません。

[内容]

V10 のインストーラでは Windows の system32 ディレクトリにランタイムライ
ブラリがインストールされません。そのため、COM ファイルを ASP から呼び出
してランタイムを実行する場合、以下の対処が必要となります。

[対処]

製品導入ディレクトリに環境変数 (PATH) を通すか、もしくは製品導入ディレ
クトリから c4x.dll (64bit 版は c4x_64.dll) を Windows の system32 ディレクトリ
にコピーしてください。

G. ランタイムライブラリ (DLL ファイル) を直接呼び出して実行する方法

[対象]

- ・ Windows ランタイム製品
- ・ DLL ファイル (.dll) を直接 LoadLibrary 関数で呼び出してランタイムを実行している場合
 - ※JavaAPI、.NetAPI、ランタイム EXE (.exe) を利用してランタイムを実行している場合は影響ありません。

[内容]

V10 のインストーラでは Windows の system32 ディレクトリにランタイムライブラリがインストールされません。そのため、以下の DLL ファイル (.dll) を直接 LoadLibrary 関数で呼び出してランタイムを実行する場合、以下の対処が必要となります。

DLLファイル (.dll)

- ・ CCast.dll (FormCast ランタイム)
- ・ CCollect.dll (FormCollect ランタイム)
- ・ CPrint.dll (FormPrint ランタイム)
- ・ CPrintST.dll (FormPrintStage / FormPrintStageWeb ランタイム)

[対処]

製品導入ディレクトリに環境変数 (PATH) を通すか、もしくは製品導入ディレクトリから上記 DLL ファイルと c4x.dll (64bit 版は c4x_64.dll) を Windows の system32 ディレクトリにコピーしてください。

H. EXE ランタイム (Windows 版) の戻り値の変更

[対象]

- ・ Windows ランタイム製品
- ・ ランタイム EXE ファイル (.exe) を直接呼び出してランタイムを実行している場合
 - ※JavaAPI、.NetAPI を利用してランタイムを実行している場合は影響ありません。

[内容]

以下のランタイム EXE ファイルを直接呼び出してランタイムを実行する場合の戻り値が変更されました。

V8 の場合・・・常に「0」が返ります

V10 の場合・・・正常終了時には「1」、警告、エラー発生時にはエラー番号 (マイナス値 4 桁) が返ります。

EXEファイル (.exe)

- ・ CCast.exe (FormCast ランタイム)
- ・ CCollect.exe (FormCollect ランタイム)
- ・ CPrint.exe (FormPrint ランタイム)
- ・ CPrintST.exe (FormPrintStage / FormPrintStageWeb ランタイム)

I. テキスト変数の太字チェックの有効化

[対象]

- ・ FormCast / FormCollect / FormPrint ランタイム製品

[内容]

テキスト変数で「太字」が設定されている場合、旧バージョンでは FormPrintStage ランタイムでのみ「太字」設定が有効となっていました。V10 では全てのランタイム製品で「太字」設定が有効となります。

J. 固定テキスト（プロポーショナルフォント）の文字間隔の扱い

[対象]

- ・ FormPrintStage ランタイム製品
- ・ FormPrintStage Web / WebClient ランタイム製品
- ・ UpToV10 で互換性のチェックを行った際に「文字間隔」と指摘された帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

V10 の上記対象ランタイムでは、固定テキストオブジェクトのフォント種別に TrueType フォントのプロポーショナルフォント（可変幅フォント）を設定すると V8 と比較して出力結果が以下のように異なります。

V8 の場合・・・文字間隔が詰まって表示されます

（全角英語を連続で出力すると、文字同士が重なって描画されます）

V10 の場合・・・正しい文字間隔で描画されます。

[対処]

以下の互換設定で、V10 で V8 と同じ出力結果を得ることができます。

- ① V10 の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV10.ini”の[Form]セクションに”FTextKerning=1”と入力します。
- ② ①設定の後、フォームエディタにてファイルを再度保存します。

または、①設定の後、UpToV10（資源ファイル変換ツール）でフォームファイルを変換します。なお、この設定は開発環境に設定してください。

K. プロポーショナルフォントの流し込み出力

[対象]

- ・ FormPrintStage ランタイム製品
- ・ FormPrintStage Web / WebClient ランタイム製品

[内容]

V10 の上記対象ランタイムでは、テキスト変数の「流し込み」設定でフォント種別にプロポーショナルフォントが設定されている場合でも、正しい位置で改行されるように処理が改善されました。

旧バージョンの上記対象ランタイムでは、プロポーショナルフォントが設定されたテキスト変数の「流し込み」出力において、固定ピッチのフォント幅を使用して改行位置を算出していました。その為、テキスト変数の定義領域の途中で改行されてしまうことがありましたが、V10 では文字幅を取得して改行位置を算出するように修正されたため、正しい位置で改行されるようになります。

L. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い

[対象]

- ・ FormPrintStage ランタイム製品

[内容]

テキスト変数の重ね合わせ設定を「下へ」に設定した場合、次のような差が生じます。

V7 の場合・・・設定が有効とならず、他のオブジェクトよりも前面に表示されます。

V10 の場合・・・設定が有効となり、他のオブジェクトよりも背面に表示されます。

M. チェックボックス・ラジオボタンの十字表現の変更

[対象]

- ・ FormCollect ランタイム製品

[内容]

フィールドオブジェクトのチェックボックス、ラジオボタンの設定で、[オプション]のチェックマーク種別に「十字形」が設定されている場合、PDF 上の表示が以

下のように変更されます。

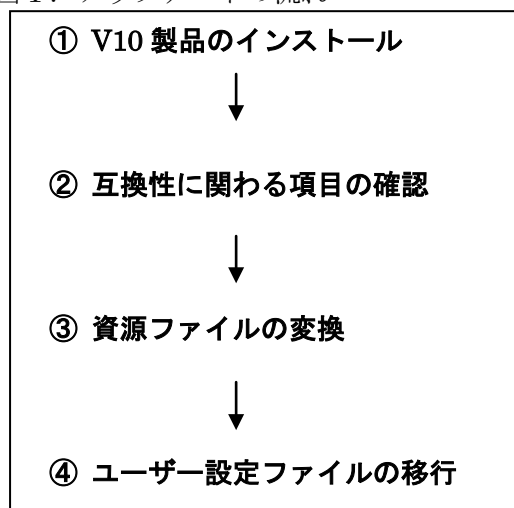
V8 の場合 . . . で表示されます

V10 の場合 . . . で表示されます

3. アップデート手順

ここではシステム環境に V10 をインストールし、アップデートする手順を示します。

図 1. アップデートの流れ



資源ファイルとは、フォームファイル、データマップファイル、ジョブ（スタイル）ファイルの各帳票資源ファイルを指します。ユーザー設定ファイルとは、帳票開発環境、ランタイム実行環境共通で使用する設定ファイルです。

① V10 製品のインストール

まず最初に V10 製品のインストールを行います。V10 製品のインストールは、V10 製品の「インストール」マニュアルに沿って行ってください。なお、V8 製品がインストールされた環境と同じ環境へ V10 製品をインストールする場合、V8 製品とは異なるディレクトリへ V10 製品をインストールしてください。

② 互換性に関わる項目の確認

ご利用の資源ファイルが「互換性に関わる項目」に該当するかどうかは、FormDesign 製品付属の資源ファイルバージョンアップツール（以後、UpToV10）で確認することができます。UpToV10 で確認できる項目は、以下の内容です。

- C. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い（p5 参照）
- E. グラフ変数の間隔設定の扱い（p6 参照）
- J. 固定テキスト（プロポーショナルフォント）の文字間隔の扱い（p8 参照）
- L. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い（p10 参照）

確認は以下の手順で行います。

1. V10 製品付属の“UpToV10”を起動します。
スタートメニューの[FormDesign ツール]、またはマネージャのメニュー[オプション]-[UpToV10]より起動できます。
2. 「変換元ディレクトリ」に V8 の資源ファイルの作業ディレクトリを選択します。
3. 「互換性チェック」の「チェック」ボタンをクリックします。
4. 互換性に関わる項目に該当する資源ファイルが存在する場合は、[互換性チェック]ダイアログが表示されます。また、製品導入ディレクトリ直下の log ディレクトリにチェック結果のログファイル“UpToV10_Diff.log”が出力されます。
5. 該当する資源ファイルが存在する場合、「互換性に関わる項目」に対応した[対処]を行ってください。

[互換性チェック]ダイアログの見方

- ・ファイルリスト

互換性に関わる項目に該当したファイル (fmd、dmp、sty) が表示されます。リスト内の各ファイルをクリックすると、そのファイルにおける互換性チェック項目が右側の[チェック項目リスト]に表示されます。

- ・ fmd ファイル (フォームファイル) のチェック項目

「C. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い」、「E. グラフ変数の間隔設定の扱い」、「J. 固定テキスト (プロポーショナルフォント) の文字間隔の扱い」「L. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い」に該当するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、「データ編集の競合」「グラフ間隔」「重ね合わせ(下へ)」に「○」が表示されます。該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

※「J. 固定テキスト(プロポーショナルフォント)の文字間隔の扱い」のチェック項目のみ、以下の基準でチェック結果が表示されます。

- ・アップデートを行う環境にフォントが導入済みで、該当する設定が存在する場合
 - 「文字間隔」項目に「○」が表示されます。
- ・アップデートを行う環境にフォントが導入済みで、該当する設定が存在しない場合
 - 何も表示されません
- ・アップデートを行う環境にフォントが未導入の場合
 - 「文字間隔」項目に「△」が表示されます。

③ 資源ファイルの変換

資源ファイルの変換作業は、互換性の問題にかかわらず必ず行います。

V8 で使用していた帳票資源ファイルを変換ツール (UpToV10) を使用して V10 で使用できるように変換します。この変換作業は開発環境で行い、変換した V10 の資源ファイルを運用環境にコピーまたは転送します。

1. V8 の資源ファイル一式を FormDesign V10 をインストールしたマシンにコピーします。
2. V8 の資源ファイルを、FormDesign V10 製品付属の UpToV10 で V10 の資源ファイルに変換します。

④ ユーザー設定ファイルの移行

V8 で使用しているユーザー設定ファイルを V10 環境へ移行する作業を行います。

ユーザー設定ファイルには、次のようなファイルがあります。

- ・ QDF ファイル
- ・ 印刷詳細設定ファイル
- ・ データ編集定義ファイル
- ・ フォント情報定義ファイル
- ・ 外字ファイル
- ・ PDF セキュリティ設定ファイル
- ・ カラーパレットファイル

V8 環境にて独自の設定を追加している場合、そのファイルを V10 の環境にコピーする必要があります。

1. QDFファイルのコピー

V8 で使用している QDF ファイルを、全て V10 の導入ディレクトリに上書きします。この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で QDF エディタを使用して QDF ファイルの新規作成及び編集を行っていない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” default.qdf” ファイルをリネーム(保存用)します。
- (2) V8 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子” .qdf” のファイル (QDF ファイル) を全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。

2. 印刷詳細設定ファイルのコピー

V8 で使用している印刷詳細設定ファイル (.ppd、.spd) を、全て V10 の導入ディレクトリに上書きします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で印刷詳細設定ファイルを使用した印刷を行っていない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V8 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “ppd” ディレクトリの拡張子 “.ppd” のファイルを全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “ppd” ディレクトリにコピーします。
- (2) V8 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “stypd” ディレクトリの拡張子 “.spd” のファイルを全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “stypd” ディレクトリにコピーします。

3. データ編集定義ファイルのコピー

V8 のデータ編集機能においてユーザー定義編集を使用している場合は、定義データ (EFmEdit.dat、dff ファイル) のコピーが必要です。ユーザー定義編集とは、インストール時に登録されたデータ編集とは別に、新規に登録した独自のデータ編集のことを指します。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、ユーザー定義編集を追加していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V8 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “EFmEdit.dat” ファイルを V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。

4. フォント情報定義ファイルのコピー

V8 のフォントマネージャで PostScript フォントを登録して使用している場合、フォント情報定義ファイルを V10 環境へコピーします。

この作業は開発環境 (FormDesign) にて行います。

なお、新規にフォントを登録していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V8 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “fonts.dat” ファイル、
” fontnums.dat” ファイルを V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下に
コピーします。

5. 外字ファイルのコピー

V8 で外字を使用している場合、外字ファイル (標準では EUDC.TTE) を V10 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、外字を使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V8 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” font” ディレクトリ、の外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” font” ディレクトリにコピーします。

なお、Windows の “Fonts” ディレクトリの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を使用している場合は、V10 導入環境の Windows の “Fonts” ディレクトリに外字ファイルをコピーします。

6. PDFセキュリティ設定ファイルのコピー

V8 で PDF セキュリティ設定を SEC ファイル（.sec）に登録して使用している場合、SEC ファイルを V10 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

- (1) V8 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “sec” ディレクトリの拡張子 “.sec” のファイルを全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “sec” ディレクトリにコピーします。

7. カラーパレットファイルのコピー

V8 で独自の色設定を作成して使用している場合は、カラーパレットファイルを V10 の導入ディレクトリに上書きします。

この作業は開発環境（FormDesign）にて行います。

なお、色設定を作成していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V8 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子 “.plt” のファイル（カラーパレットファイル）を全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。

※重要

V8 ご利用の際にさらに下位のバージョン（V4～V8）の互換設定を行っていた場合は、V10 においてもその互換設定が必要となります。下位バージョンの互換設定につきましては、対応するバージョンのアップデートマニュアルに記載されております。アップデートマニュアルは弊社サポート HP よりダウンロードしてご確認ください。

4. おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、弊社サポートページよりダウンロードできます。また、アップデート作業に関してご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■ サポートホームページ

URL : <https://support.createform.net/>

■ サポートお問い合わせ

E-Mail : support-c@iftc.co.jp

Create!Form

アップデートマニュアル[V8 →V10]

発行日 2017年5月18日 [第4版]

発行者 インフォテック株式会社